KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

天驗抄

中村俊定文庫
文庫 18
812

不踰矩

古稀賀

芹の根の長しむすぶ縁起　馬年

砂のまなこほ久しさの千とせ　楚同

よる月見も旅子の脊延して　仝

男たる事の家のしつらひ哉　年

あけがくてこそも洲まろけ襖　仝

孫子ひらひらよさゞ波　同

筆墨も小銭の奥に柳かな　蒼虬

むかしかく芭蕉にしようてある　雪雄

梅の花さくや家々の顔も古し　十文

若子や老もしや住の舞ふ姿　仙子

しらひすやさゞ波よせるとこぶり　万和

朝あけの桜ましめる日長の影　桂堂

五六輪えしお梅のつぼみ哉　月居

水あらふすむとおろく根芹かな　炼峯

梅をめでたる事ひさしかりぬ　梅老
四つ手なる枝に摘もの果さぬ　卓池
泥亀も降や降らん去る月　一茶
屠蘇なる者やひとりふる雨の山　漫し
うらびすも　もう紙子を切り　学笠
おぼえある頭の梅や人の皺　太祇
花探の杖ひい久しうの山　護物
蝶子咲きて見るやしめりも　蓬馬

今朝君うとしの書かな梅咲ぬ　應し
破ノ弓の的ノ中なし筑波山　袁丁
梅咲て小さき庵ノ中しめり　孤山
降ぬ雪も山よりなれぬ月　泳海
梅折て戻されぬ雀ノ角　茶鶴
ふるもよ梅ノ中もうるる残ノ波　可九
梅ノ雪この里人の拾ひ来よ　一宵
はれ雪や波つぬいてる海　久臧

一遍うり咲てまさく椿うれ　雄嶺

見捕や世をうるおしやはた梅も　ら人

世をの春やそふるあさ雪ふる　為あ

和ゝやし又ゝ和ゝうめ　柳　百孝

苗代の小田もうるく雪山ふり　雙南

人うるう梅ゝ　ゝうゝかけて雲　桂丸

ゝうゝ山の夜明を木の宮より　晩蔭

春の来し法の京や柳さく　古風

七種のひとくさ皮のうり　芹街

取ゝし行や春の雲、　沼人

うゝしと松ほり行や春の風、　小圭

梅柿も春つく岩の白ひ、　且ゝ

古稀の春を祝ふ

孫さめしうゝや窓の月も梅　了莪

梅二輪咲る三寿しほのうり　鳥巷

[illegible]す梅も[illegible]　雄関

[illegible]中[illegible]梅の根の自[illegible]　信母

人[illegible]梅[illegible]のさ[illegible]　亀丸

梅[illegible]　立春

梅[illegible]雀物の[illegible]　柳村

梅[illegible]　麦園

[illegible]梅[illegible]　公麓

咲[illegible]月十日の[illegible]　子孝

[illegible]ハ枝[illegible]し梅の[illegible]　心海

[illegible]梅の芸　亀州

[illegible]梅[illegible]　[illegible]

中[illegible]ハ[illegible]の雪　北由

[illegible]ハ[illegible]の空[illegible]月の梅　長富

梅[illegible]の言葉[illegible]　[illegible]

[illegible]　菖火

梅[illegible]鳥の朝[illegible]　月哉

梅ゑけて花さく温泉のさかり口　丶水

しめも人をしらしぬ春もおもしろ　二品

夏の陰日をさく梅の白ひうち　農翁

紅裏の梅ふうきを梅の花　芝峯

梅のはくるをかしの見　青苔

梅の戸をあけ入なり扇　俊谷地連　岱曲

正月の言葉はゆるぶ梅の色　公原

花ちるの梅乃うれかなる婚礼　母水

丸ふなる月をさくらの花　如門

しめをうたを宮ものすまる春の　出志

ちる梅のうし酒を飲るうれ水　星景

七夕の光をうるをて

高る春を祝代の生涯風呂　杉野房　楚仙

文政八の年春